

佛教學七三十一

第 1 号

創刊のことば

- 大乘佛教について……………山口 益…2
——その精神史観への一試攷——
- 天台法界観の系譜……………安藤 俊雄…11
- 鎌倉末—南北朝の唯識宗……………富貴原 章信…27
- 『往生要集』の思想的意義……………坂東 性純…41
- 煩惱障所知障と人法二無我……………舟橋 尚哉…52

書 評

- 前田 恵学：原始佛教聖典の成立史研究……………桜 部 建…67
- 平 川 彰：原始佛教の研究……………小 川 一 乗…74
- E. Conze : Buddhist Thought in India ……片 野 道 雄…80
- 早島 鏡正：初期佛教と社会生活……………大 淵 顯 信…84
- 中国佛教への道しるべ……………横 超 慧 日…92

海外学界ニュース

- ウィーンインド学研究所の近況……………雲 井 昭 善…102
- インド・ビハール州立四研究所の現状 (一) ……長 崎 法 潤…104
——ナランダ・パリー研究所——

1965年5月

大谷大學佛教學會

障の断は、諸煩惱を断するという人間として当然行なうべき、どちらかといえば、消極的な立場であるが、大乘の菩薩はそれだけに満足せず、更に利他行であるが、所知障の断へと進む。いいかえれば、煩惱障の断は悟りを得るために当然行なうべき行であり、これは無分別智によって断ぜられる。しかし所知障の断は、自らが悟ったという、いわゆる独覚の立場に満足せず、更に利他行であ

る大乘菩薩道へと進むことによって初めて断ぜられるものであり、かくしてこの所知障は後得清浄世間智によって断ぜられるのである。そしてその習気というのは、無分別智と後得清浄世間智のいずれかが欠けている不完全な場合で、もとより大乘菩薩行は煩惱障所知障のみならず、二障の習気をも完全に滅することを目的としている。

執筆 者 紹 介

山 口 益

名誉教授・文博
※リポジトリ非公開

安 藤 俊 雄

文学部教授・文博
※リポジトリ非公開

富 貴 原 章 信

文学部教授・文博
※リポジトリ非公開

坂 東 性 純

文学部助教授
※リポジトリ非公開

舟 橋 尚 哉

研究室嘱託
※リポジトリ非公開

桜 部 建

文学部助教授
※リポジトリ非公開

小 川 一 乗

大学院博士課程
※リポジトリ非公開

片 野 道 雄

大学院博士課程
※リポジトリ非公開

大 淵 顕 信

大学院博士課程
※リポジトリ非公開

横 超 慧 日

文学部教授・文博
※リポジトリ非公開

雲 井 照 善

文学部教授・文博
※リポジトリ非公開

長 崎 法 潤

文学部助手
※リポジトリ非公開

※リポジトリ非公開

編集後記

かつて、昭和二十五年から四年間、わが大谷大学佛教学研究室より佛教学会会報を刊行したことがある。学問に対する情熱を燃やしながらも、よぎなく第八号をもって休刊せざるをえなかった。われわれはかねてから、その時の編集にあたった先生方及び諸先輩の話に耳を傾け、できることなら、われわれの手で再び学術雑誌を刊行したいという願望を抱き続けてきた。そのわれわれの念願が、諸先生及び学生諸君の強い要請と相まって、此度やっと実現され、ここに創刊号を世に出すこととなったのである。

本誌は佛教の専門学者のみを対象とした雑誌ではない。読者として、佛教に関心を抱き佛教への正しい理解を求めている人々―佛教学専攻の学生から入門者まで―をも広く歓迎している。従って、その内容は、学術雑誌とはいふものゝ、必ずしも高度の研究論文だけに限らず、学界のニュース、書評なども重視しながら

本誌を通して、おのずから内外における佛教学研究の動きがわかるようになってくる。

本誌の題名「佛教学セミナー」には、このような編集意図が含まれている。アカデミックで、しかもフレッシュな響きを伝える「佛教学セミナー」、これは、本誌の創刊にあたり、広く佛教学会々員より応募した題名の中から厳選されたものである。

われわれの願望を荷負い、ここに誕生した「佛教学セミナー」が、読者諸氏の絶大なる御支援によって、現代の佛教学研究の一翼として大きく羽撃き得ることを念じている。その為にも、本誌に対する忌憚なき御意見、愛情ある御批判を期待し、心からなる御支持御協力を希望する次第である。

本誌は年二回（五月と十月）刊行の予定である。購読御希望の方は大谷大学佛教学研究室または文栄堂書店へ御申込み下さい。
（長崎）

佛 教 学 セ ミ ナ ー 第 1 号

昭和 40 年 5 月 10 日 印刷

¥ 200

昭和 40 年 5 月 15 日 発行

編 集
発 行

大 谷 大 学 佛 教 学 会
代 表 者 舟 橋 一 哉

京 都 市 北 区 小 山 上 総 町 22

印 刷

中 村 印 刷 株 式 会 社

発 売 所

文 栄 堂 書 店

京 都 市 中 京 区 寺 町 通 三 条 上 ル
振 替 京 都 2 9 4 8 番
電 話 4 7 1 2 番

大谷大学佛教学会会則

第一条(名称) 本会は大谷大学佛教学会と称し、事務所を大谷大学佛教学研究室内に置く。

第二条(目的) 本会は佛教学の研究と発表を以つてその目的とする。

第三条(事業) 本会は左記の事業を行う。

一、大会
二、例会
三、公開講演会

四、機関誌「佛教学セミナー」の発行
五、研究旅行
六、その他必要なる事業

第四条(会員) 本会は左記の会員を以つて組織する。

一、正会員 大谷大学佛教学専攻の大学院並に文学部学生

二、特別会員 大谷大学佛教学所屬の教授・助教授・講師・助手・嘱託並に希望する者

三、賛助会員 佛教学講座卒業生並に本会の趣旨に賛同する者

第五条(役員) 本会に左記の役員を置く。

一、会長 佛教学講座主任教授を以つてこれに任ず。

二、委員 会長に委嘱されたる者、並に大学院及び文学部学生中より互選されたる者、任期は一年とする。

三、評議員 特別会員及び委員中より選出されたる者。

第六条(経費) 本会の経費は会費(特別会員年額、教授千五百円、助教授・講師千二百円、助手・嘱託・その他八百円、

正会員五百円、賛助会員四百五十円)及びその他の収入による。

第七条(年度) 本会の年度は毎年四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終了す。

第八条(規約の変更) 本会則の変更は評議員の決議を経て、総会の二分ノ一以上の同意を必要とする。

BUDDHIST SEMINAR

CONTENTS

Articles :-

- Historical Consideration of Mahāyāna
 Spirituality*Susumu Yamaguchi* (2)
- Source of the Dharma-dhātu Concept in
 the *T'ien-t'ai* Teachings*Toshio Ando* (11)
- The Vijñānavādins from the Late *Kamakura*
 to the *Nanboku-cho* Period.....*Shoshin Fukihara* (27)
- Significance of Genshin's Thought in
 the *Ōjoyoshū**Shojun Bando* (41)
- Kleśa-jñeyāvaraṇa and Pudgala-
 dharma-nairātmya.....*Naoya Funahashi* (52)

Book Reviews :-

- E. Maeda: A History of the Formation
 of Original Buddhist Texts*Hajime Sakurabe* (67)
- A. Hirakawa: A Study of Original Buddhism...*Ichijo Ogawa* (74)
- E. Conze: Buddhist Thought in India.....*Michio Katano* (80)
- K. Hayashima: Early Buddhism
 and Social Life*Kenshin Ōbuchi* (84)
- A Guide to Chinese Buddhism..... *Enichi Ōcho* (92)

Overseas News :-

- Indologisches Institut der Universität Wien*Shozen Kumoi* (102)
- Nalanda Pali Institute*Hojun Nagasaki* (104)

Reports :-

PUBLISHED FOR
 THE SOCIETY OF BUDDHIST STUDIES
 OTANI UNIVERSITY
 KYOTO, JAPAN